



# E 生物多様性の保全

**基本的な考え方** 地球上では多種多様な生き物と自然環境がバランスを保ちながら共存しています。森林資源である木材を利用した事業を営むにあたり、生物多様性の保全と持続可能な利用に努めています。また、地域の自然環境との調和を目指し、地域社会とのコミュニケーションにも積極的に取り組んでいます。

## ビオトープの活用

全国の事業所・工場では地域社会や地域環境とのつながりの中で事業活動を行っています。特に湧水や原生林、地域固有の動植物など豊かな自然環境に囲まれた福島矢吹工場と武生工場では敷地内にビオトープを造成し、地域の皆さまと連携しながら地域固有の生態系を大切に守り、育てています。

ビオトープや周辺環境の生態系の推移を調査するため、定期的に生物のモニタリング調査を行っています。植物、昆虫、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、ほ乳類など、福島矢吹工場では全135種、武生工場では全258種の生息が確認されています。



調査実施状況(秋季、スウィープ法)

### 【ビオトープの所在地】



### Topics ホタル飛翔プロジェクト～矢吹町の皆さまとの協働～

福島矢吹工場は昼間の工場使用電力を太陽光発電で賄うなど、これまで蓄積してきた環境技術のノウハウの全てを結集すると同時に、地域の生態系にも配慮した人にも環境にも優しい工場です。2012年から矢吹町のボランティア団体「やぶき遊・ゆうライフクラブ」の皆さまと一緒にビオトープへのホタルの定着を目指した取組みを行っています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、「ホタル飛翔プロジェクト」は参加人数を減らしての活動となりました。2015年に初めてビオトープでのホタルの飛翔を確認して以来、ホタル定着の取組みを継続しており、引き続きビオトープ内でホタルの飛翔を確認できました。

実施年度	活動内容
2010	ビオトープの造成
2012	「やぶき遊・ゆうライフクラブ」結成 ホタル生息調査
2013	ホタルの飼育開始
2014	ホタルの成虫採取・採卵・定着
2015	ホタル定着活動継続 初めてビオトープ内でホタルの飛翔を確認
2016～2020	ホタルの定着活動を継続し、飛翔を確認



ホタルの飛翔を確認